

KAGOSHIMA

Barrier Free-最前線

Barrier Free-Saizensen

鹿児島島のいろいろな建物や施設、あるいは人の心の中にあるバリアが取りはらわれています。一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。



車いすスロープ



車いす用スペース

●鹿児島市交通局の超低床電車 ユートラムが電停に着くと、車いすの青年が慣れた車さばきで電車にさっと乗り込み、所定の位置で車いすのブレーキをかける。そんな光景が当たり前になっている。平成14年導入のユートラムに続き、平成19年4月から、ユートラムIIが運行を開始した。初代ユートラムより4m長く、定員も20名多い。揺れはユートラムに比べても少なくなり、カーブでの乗り心地が快適。車いすには、ユートラム同様4台に対応。低床とは、バリアフリー新法

(注1)で定められている、床高四〇センチ以下の車両のこと。電停のホームとは段差が五センチ前後で、車いすでも高齢者の方でもスムーズに乗降できる。現在、ユートラム9両、ユートラムIIは2編成運行中。平成20年3月までに、ユートラムIIをさらに2編成導入予定。

(注1)高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律のこと(平成18年12月20日施行)。

街に出かけたくなる最新の路面電車

鹿児島市交通局の
接続式超低床電車
ユートラムII
(鹿児島市) **FILE No.1**

住所 〒890-0051 鹿児島市高麗町43番41号
TEL 099(257)2111
FAX 099(258)6741
ホームページ <http://www.city.kagoshima.lg.jp/koutuu.nsf>
携帯アドレス <http://www5.synapse.ne.jp/koutuu/time/>



ユートラムII



[写真左上]1階案内所に鹿児島県福祉のまちづくり条例適合証 [写真右上]「オストメイト」にも対応した多目的お手洗い。オストメイトとは、大腸やぼうこうの手術により、人工肛門や人工ぼうこうを造設した人のこと。腹部に排泄のための孔(ストーマ)を設けており、通常のトイレ設備では、排泄行為が困難であるため、オストメイト対応のトイレ設備整備が進められている。 [写真右下]正面玄関入口にある視覚障害者用の案内係呼び出しボタン



市役所の核になるデパートとしての役割が期待されている。●

●平成18年に、きりしま国分山形屋が新装オープンするとき、いちばんのテーマは「おもてなし」だったという。高齢者や障害のある方がゆつたりお買い物ができる余裕のある店舗づくりを心がけ、デパート全体を鹿児島県福祉のまちづくり条例に適合

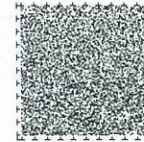
人でのぎわう街にはバリアフリーなデパート

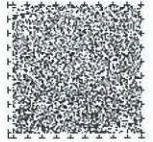
きりしま国分
山形屋
(霧島市) **FILE No.2**

住所 〒899-4332 鹿児島県霧島市国分中央3丁目7番17号
TEL 0995(45)1511
FAX 0995(45)1513
営業時間 10:00~20:00 年内無休



きりしま国分山形屋正面





リレーエッセイ

ハードルを越えて②



た な か な つ き
田中 夏希さん

～ 私の挑戦・錦江湾横断遠泳 ～

●田中夏希さん
1996年生まれの11歳。先天的感音性難聴のためほとんど聞こえない。清水小学校5年生在籍。遠泳の成果で鹿児島市小学校水泳記録会25m平泳ぎで6位入賞。

7月21日、私にとって2回目の挑戦の日だ。

朝早く起きて60名の仲間といっしょに桜島小池海岸へ。今日は清水小学校の伝統行事、錦江湾横断遠泳の本番だ。私は「去年も泳いだんだから、きっと大丈夫。」と自分に言い聞かせた。

初めて遠泳挑戦したのは4年生の5月だ。気温21度、プールの水温19度、水は氷水のように冷たい。体はがちがち、くちびるはむらさき色。寒くて体が言うことをきかない。そのうえプールでは補聴器をはずしているの、周りの人の言っていることはほとんど分からない。私はあまりの寒さとつらさに「どうして水泳同好会に入ったんだろう。」と後悔した。「いやだ、やめたい。」「でも、自分だけやめるなんてできない。」「何とかお姉ちゃんみたいに立派に泳ぎたい。」心の中でいろいろな気持ちと戦っていた。

そんなとき、いつもとなりにおいてコーチの指示を伝えてくれたり、はげましてくれたのが友達の菜摘ちゃんだった。

菜摘ちゃんは幼稚園のころからの仲良しで、手話や指文字も使って気持ちを伝え合える大切な友達だ。そんな菜摘ちゃんのすがたを見て、次第にほかの友達もいろいろなことを話しかけてくれたり、身振りや口話で教えてくれたりするようになった。冷たい水のつらさや聞こえないことへの不安はいつの間にかふきとんでいった。

今年は菜摘ちゃんととなり同士で泳ぐことになった。

「ようし、必ず完泳するぞ。」

はりきって泳いだ。去年と違うことは初挑戦の白帽さんたちをはげます先輩になったことだ。ときどき菜摘ちゃんと手話で話をしながら、後ろの白帽さんたちに「がんばれー。」と声をかけた。

2年間の遠泳挑戦で泳ぎが得意になっただけでなく、友達もたくさんできた。コーチやお父さん、お母さん方からもいつも応援してもらった。私は「どんなにつらくてもやればできるんだ。」と分かった。

来年はいよいよオレンジ帽。3年連続完泳の盾をもらえるようにがんばりたい。そして、一人でも多くの方が「聞こえないってどういうこと?」と考えてくれるように願っている。



錦江湾横断遠泳に挑戦できるのは、4年生から。初挑戦は白、2回目は青、3回目はオレンジ色の帽子をかぶり、桜島の小池海岸から、磯海水浴場までの4.2キロを泳ぐ



お友達の山口菜摘さん(右)と



遠泳中の田中さん

